

香川県農業・農村審議会議事概要

- 1 日 時：平成 27 年 8 月 26 日（水） 10 時～11 時 45 分
- 2 場 所：香川県庁 北館 3 階 303 会議室
- 3 出席者：片岡会長、大山委員、小比賀委員、香川委員、加藤委員、田中委員、田淵委員、月山委員、佃委員、橋田委員、広野委員、松田委員、松本委員、三笠委員、三原委員（会長以外は 50 音順）
- 4 議 題
(1) 新たな香川県農業・農村基本計画の骨子案について

【議事要旨】

- 新たな香川県農業・農村基本計画の骨子案のポイントについて
事務局から、資料 1 と資料 2 に基づいて、新たな香川県農業・農村基本計画の骨子案のポイントについて説明した。
- 新たな香川県農業・農村基本計画の骨子案の概要について
事務局から、骨子案に基づいて概要を説明し、その後、審議委員から御意見・御提言をいただいた。

主な意見は次のとおり。

○委員

高齢化社会の中、若い農業者を確保する必要がある、そのためには、小学生を対象とした農作業体験が重要と考える。教育委員会に働きかけて、学校教育のカリキュラムに農作業体験を組み入れてもらいたい。また、それぞれの産地に合ったブランド農産物を開発・普及し、産地形成に力を入れてもらいたい。

骨子案はいろんな角度からよく書けていると思うので、今後は重点的に推進する施策を検討してもらいたい。

→（事務局）

- ・ 近年、若い新規就農者が増加しているが、高齢層のリタイアが進む中、次世代を担う若い農業者をさらに確保する必要がある。そのためには、子供の頃から農業に触れて、農業の魅力や重要性を理解してもらうことが重要と思われるので、農作業体験の推進について検討したい。
- ・ また、農業は適地適作が基本であることから、地域の実情や品目の特性をよく踏まえて、ブランド農産物の開発や生産拡大を推進し、産地の育成を支援してまいりたい。

○委員

中長期的に、農業を担う人材と農業に理解のある人材の両者を育成することが重要。

○委員

具体的な指標や数値目標については検討している段階か。また、現行の基本計画の進捗状況はどのようになっているのか。

農業従事者が減少している中、農業産出額が横ばいで推移しているのは、生産性が上がっているということであり、もっと胸を張ってよいことと思う。

今後、日本の人口が増えることは望めなく、全ての業界を通じて、人材の奪い合いになると思うので、県にある農業大学校を有効に活用してもらいたい。また、香川大学農学部とも連携してはどうか。

農業には豊作・不作があると思うが、不作時の所得を補償する保険の仕組みがあれば、農業への参入が進むのではないか。空き家の活用も推進すれば、県外からの就農者も増えると思われる。

→ (事務局)

- ・ 新たな基本計画の指標や数値目標については、現在、検討しているところ。現行基本計画の進捗状況については、3月に開催した審議会で審議いただいたところであるが、次回の審議会でも進捗状況について報告したい。
- ・ 本県では、地域の担い手がリタイアする小規模農家の農地を借り受けて規模拡大を進め、生産性が向上しており、これまでの取組みの成果をしっかりとアピールしてまいりたい。
- ・ 農業大学校の活用は重要であり、農業高校生の就農促進も必要と考えている。香川大学とはキウイフルーツなどで共同研究を行っており、引き続き、連携してまいりたい。
- ・ 不作時の保険に関しては、国において収入保険制度を検討している。
- ・ 県外からの就農者が円滑に住居を確保できる仕組みを考えており、空き家の活用についても市町と連携して検討したい。

○委員

地球温暖化への対応を考えてもらいたい。また、規格外品などの廃棄される農産物の循環利用を進めるなど、環境に配慮した農業にも取り組んでももらいたい。

→ (事務局)

- ・ 温暖化に対応した品種育成や技術開発を検討しているところであり、環境に配慮した農業についても検討してまいりたい。

○委員

新規就農者が増えているが、途中でリタイアする人もいるので、定着をしっかりと支援する必要がある。また、ベテラン農家の有する高い技術を若い農業者が受け継ぐシステムを考えてもらいたい。水利組合も高齢化が進んでいるので、若い人も一緒になって地域の水利体系を守るなど、若い人も参画した地域づくりを支援してもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 就農から定着までの一貫したサポート体制を充実させ、地域の担い手や市町等が連携して新規就農者を支える体制を強化したい。
- ・ 技術の継承については、国でICTを活用した「技術の見える化」を進めており、本県でも篤農家等の有する優秀な技術を産地として受け継いでいける仕組みを検討してまいりたい。
- ・ 地域で若い人も含めて寄り集まり、一緒に地域のことを話し合えるような組織づくりを進めてまいりたい。

○委員

農業は長期的な視点が必要であり、長期の目標があった上で、今後5年間の目標を考える必要がある。

本県には、1個千円で売られるキウイフルーツや、東京の千疋屋で売られるイチゴなど、評価の高い「さぬき讚フルーツ」があるものの、県民にはあまり知られていない。いろいろとPRしているとは思いますが、もっと力を入れてもらいたい。

小学校を対象に酪農体験を実施しているが、校長先生が替わると取り止めになることもある。小さい頃に農業に触れることにより、農業が将来の職業選択の一つになると思うので、農業体験の推進にも力を入れてもらいたい。

なお、骨子案にある「儲かる農業・儲ける経営」とは、どのレベルの経営体をイメージしているのか、教えてもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 農業を長い目で捉えることは重要であり、本県農業の将来像について考えてまいりたい。
- ・ 香川県のブランド農産物が市場や消費者から高く評価されていることを広くPRしてまいりたい。
- ・ 小学校の農業体験の取組みが組織として継続するよう、教育委員会にも相談しながら、対応を考えたい。
- ・ 「儲かる農業・儲ける経営」の基準については、所得水準を一概に示すことは難しいが、農家の後継者が経営を継ぎたいと思えるような、魅力ある力強い経営体を育成してまいりたい。

○委員

平成30年度から米の交付金（7,500円/10a）が廃止されるなど、国の農政改革により、本県の農業も大きく変わると思うので、この5年間で重要である。本県の農地を守っていきけるように、県と市町が連携して、担い手の育成にしっかりと取り組んでもらいたい。

○委員

スピード感を持って取り組んでもらいたい。

農業には、雇用を生み出すレベルの経営体や家族でやっていく経営体など、いろんなパターンがあるので、新たな計画では、力強さを打ち出す攻めの農業と、生活が成り立つ安定した農業の両面を考えてもらいたい。

なお、ブランド農産物をPRするに当たっては、需要に見合う量を確保する必要があることに留意してもらいたい。

→（事務局）

- ・ 経営体にはいろいろなパターンがあり、目指す基準もそれぞれ異なることから、経営の多様性についても考慮したい。
- ・ 商売において欠品は許されないので、ロットの小さい農産物は市場以外のルートで売り込むなど、それぞれの農産物に適した売り方を考えたい。

○委員

さぬきうどんは香川産の小麦で作るものであると強く感じており、今後もそうした思いを持ってやっていきたい。

→（事務局）

- ・ 現在のところ、「さぬきの夢」の生産量が需要に追いついていない状況であるので、「おいでまい」と「さぬきの夢」の二毛作を推進するなど、小麦の生産拡大に努めてまいりたい。

○委員

「おいでまい」の生産を拡大してもらいたい。種子が不足しているという話を耳にするが、どのような状況か。

→（事務局）

- ・ 需要に応じた生産拡大を進めており、種子も確保している。米の食味ランキングで2年連続「特A」の評価を受けた高い品質を維持しながら、生産拡大に努めてまいりたい。

○委員

県には、本日の具体的な意見・提案を踏まえて、計画作成に向けて、引き続き、検討をお願いしたい。

「以 上」